

(1) 事業の実施状況について

まず、事業を企画する上で、下記の点に留意し企画を行いました。

- A) 「博物館明治村」ならではの、という印象をもってもらえる。
- B) 成果物を持ち帰ってもらうことができる。
- C) 体験時間は 30 分以内を目標とする。

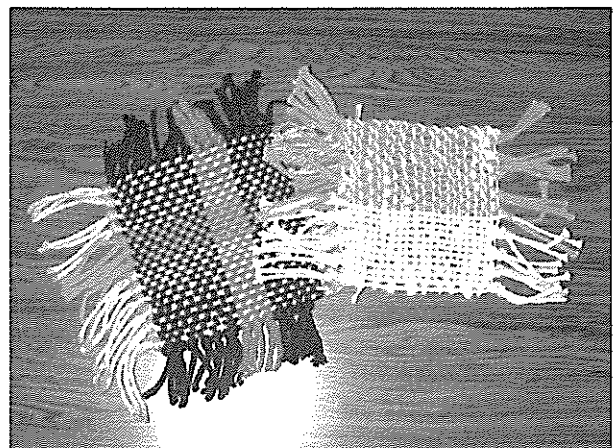
A) については、事業を行うにあたっては、どこの館でも同じような事を行うのではなく、館の特徴を生かした事業を行うことにより、それをきっかけとして、館の特徴や良さを来館者の方に理解していただきたいと考え、博物館明治村所蔵で現存最古の一つといわれる「ガラ紡」をテーマとしました。

B) については、途中の過程の生成物ではなく、結果としてどのようなものができるのか、それがわかることにより、ただ漫然と作業するのではなく、「〇〇をつくる!」という明確な目標を来館者に意識付けることができると考えたからです。また、成果物も途中の生成物（この場合はガラ紡糸）では、やっている時は嬉しいと思うかもしれませんが、家に帰ってから、顧みることがないのではないかと考え、一本の糸から織物に変わっていく過程も理解し、家に帰ってからも体験活動を振り返ってもらえる「モノづくり」を目指しました。

C) については、ご存知の方も多いと思いますが、私ども博物館明治村は 100 m² という広大な敷地の博物館です。すべての展示建造物をしっかり見るには、到底一日では不可能です。そして、多くの来館者の意識も一般的な博物館・美術館へ見学に行かれる方とは異なるように思われます。つまり、この体験が来館者の目的ではありませんし、博物館明治村すべてを表しているものでもありません。また、小学校団体の社会見学等の来館も多く、先生方からは、体験学習のニーズが高いものの、博物館明治村での滞在時間は 3 時間から 4 時間です。そこで、ある程度館内もきちんと見学していただきつつ、体験活動を行うとなると 30 分が限度ではないかという結論に達したのです。

また、この事業を実施する上では、多少欲張りではありますが、4 つの目標を掲げました。

- ① 現代日本の経済的発展の基である「モノづくり」への関心を高める。
単純な部品の組み合わせから、効率の良い機械を発明した、その工夫に迫りたい。
- ② ガラ紡糸という、上質糸の生産ラインからはねられた綿を用いた糸であることから、資源の有効活用という点からもガラ紡糸か



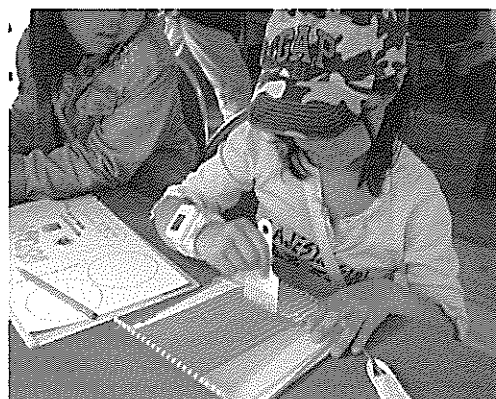
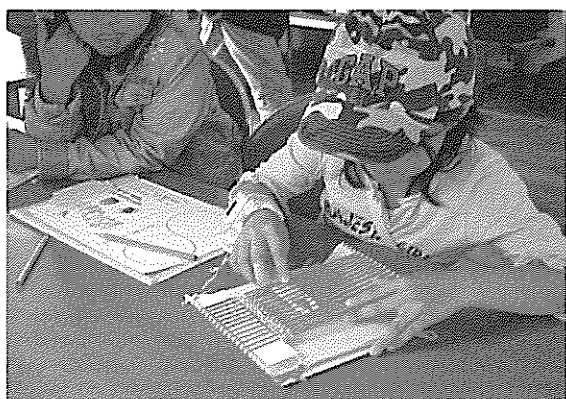
らつくられる製品は環境にも優しいということを伝えたい。

③ 綿から糸を紡ぎ、さらにコースターなどの製品をつくるという「モノづくり」の喜びを体験してもらう。

④ 折りしも 2005 年 3 月から博物館明治村の位置する愛知県で開催されている「愛・地球博」見学のついでに立ち寄られる諸外国の見学者にも近代日本の創意工夫の知恵の素晴らしさを伝える。

目標に対しての評価は、まだ事業を開始して間もないこともあり、後日に譲りたいと思います。

運営の方法ですが、現在博物館明治村では①学校団体からの依頼に対応（平日中心）②地域子ども教室「明治村子どもかがやきプラン」での対応の 2 つの方法を検討しています。①はこの事業の採択が決まった後に博物館明治村主催で開催した学校の先生対象の下見会席上でこの計画を話したところ、すぐに何校かの先生からお問合せいただき、先生方の関心の高さを肌で感じました。②は平成 16 年度から小中学生の入館料が無料となる毎週土曜日に開催している事業で、毎週のように来館する小学生リピーターや日本の伝統文化に興味を持つ外国人の方の参加も最近は増えています。



「明治村子どもかがやきプラン」会場で。機織りをする子ども、折り紙建築をする子ども、それぞれ思い思いの体験を行う。

（２）地域との連携について

博物館明治村単独の活動ではありますが、「ガラ紡」という愛知県で局地的に広まった機械であることから、研究者や研究機関が多く、今回の事業の調査やワークシートを作成するための写真撮影などで多くの方の協力を得ることができました。「ガラ紡」という資料はこの事業が採択される以前から、館蔵資料の中でも、来館者だけではなく、産業遺産の研究者の方々にも広く知っていただきたと考えていた資料なので、展示や季刊誌などで取り上げてきました。そのような実績から、ガラ紡の発明者や館蔵ガラ紡の製作者の方の子孫の方などと交流を築くことができていたのも、今回の事業には大きく役立ちました。

そういった意味で、地域の方々との連携が取れたのではないかと思います。

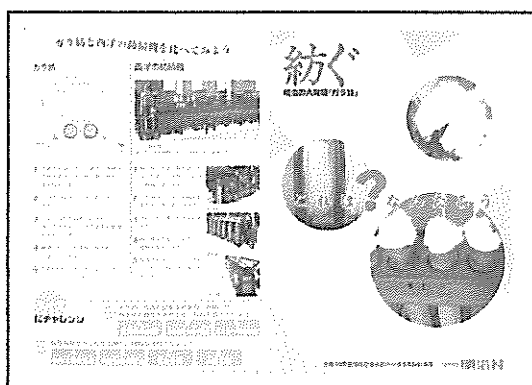
(3) 成果物について

今回の事業の成果物はワークシートです。これは前述いたしましたが、外国人の方の体験也大いに歓迎する意味で、日本語とは別に韓国語（ハングル）・中国語・英語の全部で4種類のワークシートを作成しました。

内容は2種類で、4ヶ国語で作成いたしましたので、計8種類のワークシートを作成しました。経費的な面から、言語が異なっても、それぞれデザインは1種類とし、日本語のワークシートを基本とし、各国語バランスよく配置できるよう留意しました。とはいうものの、言語により文字量は大幅に異なり、内容的なボリュームはそれぞれの言語によって、左右されてしまう結果となりました。

ワークシート

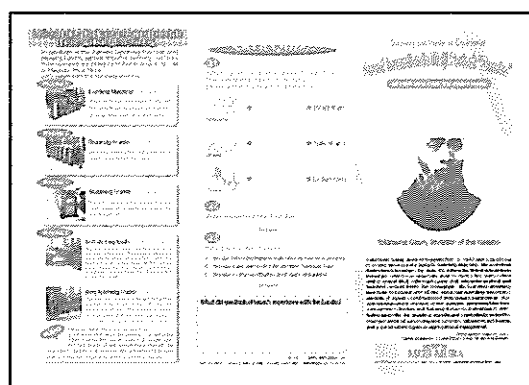
「紡ぐ 明治の大発明「ガラ紡」」



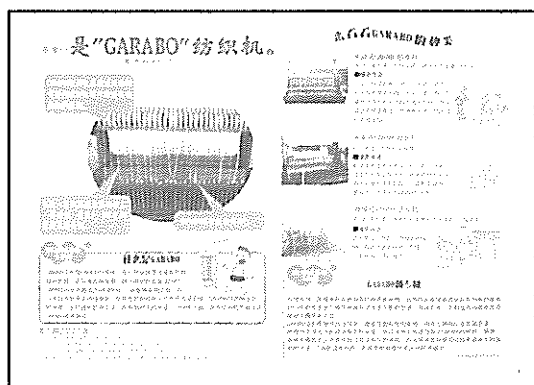
↑ 日本語版の外画

ワークシート

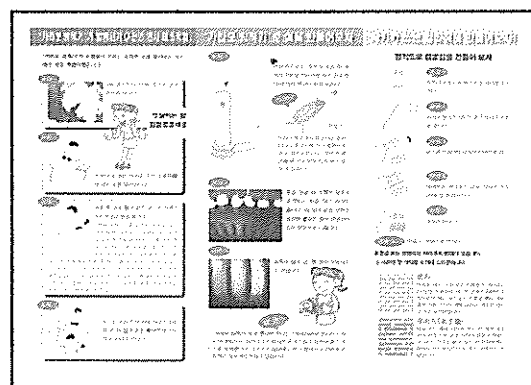
「糸を紡いでコースターを作ってみよう」



↑ 英語版の外画



↑ 中国語版の内面



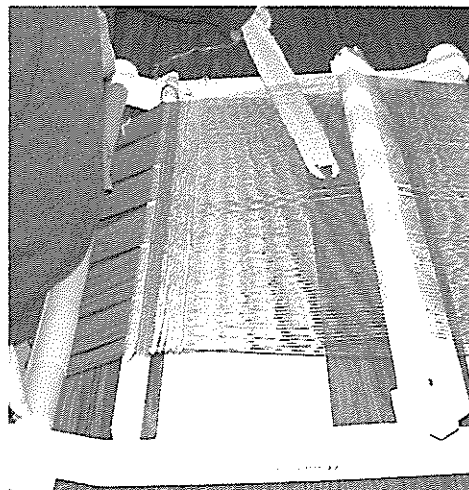
↑ 韓国語版の内面

(4) 参加者の反応

開催を始めて間もないので、結論めいたことはまだまだ先になることと思います。ただ、大きく感じることは、老若男女を問わず、このような体験には参加意欲が高く好評であることです。私ども博物館の職員が習熟しておらず、ことのほか準備に時間をついやしてしまいますが、その点を除けば概ね、好評を博しているといつて過言ではありません。



説明用手機のセットに悪戦苦闘の係員



横糸にガラ紡糸を用いた
説明用手機

(5) 芸術拠点形成事業を実施したことによる効果

一番大きな点は、先回の平成14年の助成を受けたときも同じなのですが、爛運営の財政状況は非常に厳しく、自前資金ではなかなか行うことが出来ない「体験学習の充実」を図ることが出来た点ではないかと思います。また、ただ装置を作るだけでなく、実際に体験をしていただくことで、博物館明治村への興味を一段と深めていただくことにつながっていることは見逃せない点ではないでしょうか。

また、意外な効果としては、来館者の「明治村って、博物館だったのね。」という再認識を得られたことである。とかく遠隔地の方からは「遊園地」、近郊の方からは「入場料のいる公園」という認識が強く、様々な活動を行っても、なかなかその努力が報われなかったのだが、表示物やワークシートに記された「文化庁芸術拠点形成事業採択事業」という文字はさしずめ黄門様の引導の如くである。そして、それまで単に古臭い建物としか眼に映っていなかった来館者も、「これは価値あるものだ」→「大切に守らなければならない。」という見方に変化しているようにも感じられます。

(6) 新聞記事等

今後博物館明治村の季刊誌や、ホームページにて積極的に告知を図っていく
予定です。